

大豆づくり情報

第 3 号

令和 8 年 8 月 27 日
村山総合支庁
農業技術普及課
TEL: 023-621-8295

マメシンクイガの発生はやや多い予報！

適期の病害虫防除と雑草対策で収量・品質を確保しよう！

1 病害虫の適期防除

- マメシンクイガによる食害粒や紫斑粒は、減収や品質低下につながります。適期を逃さずに防除を実施しましょう。
- マメシンクイガは、8 月下旬から 9 月上旬にかけて産卵最盛期となります。
薬剤散布による防除適期は産卵最盛期となるため、**8 月下旬（8 月 25 日頃）と 9 月上旬（1 回目散布の 10 日後）の 2 回防除が基本**です。
- 紫斑病は、開花期から 40 日程度が感染時期となります。また、登熟期間の気温が 25℃以上で多湿条件の場合に感染が助長されます。
防除適期は**開花 25～30 日後**であり、**1 回目のマメシンクイガと同時防除が可能です**。
- 防除の際は、莢まで薬剤が付着するように、丁寧に散布しましょう。



マメシンクイガによる食害



紫斑病（罹病子実）

2 雑草対策の徹底

- 大型雑草や帰化アサガオ類を残したまま収穫すると、汚損粒の発生に繋がり、品質低下の原因になります。雑草が結実する前に抜き取り、適切に処分しましょう。
- 特に、帰化アサガオ類などの難防除雑草は、翌年に種子を残さないことが重要です。圃場を確認し、発生を確認した場合は、速やかに抜き取りを行いましょう。

農作業事故と熱中症に要注意！声をかけ合い農作業事故を防止しましょう！

機械作業を中断する時は必ずエンジンを止めましょう！

こまめな休憩と水分補給、ゆとりを持った無理のない作業を！